

既存不適格建築物の増築に係る基準の緩和について（告示改正等）

【赤字】改正箇所

		現行規定		改正後																	
増築部分の既存部分に対する床面積 ≤ 1 / 2	構造上 一体	<ul style="list-style-type: none"> <li>増築部分は仕様規定に適合</li> <li>既存部分は耐久性等関係規定に適合</li> <li>建築物全体について、以下の構造計算が必要</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>4号木造建築物</td> <td>左記以外の建築物</td> </tr> <tr> <td><u>構造計算が必要</u></td> <td>ほぼ通常の構造計算</td> </tr> </table>	4号木造建築物	左記以外の建築物	<u>構造計算が必要</u>	ほぼ通常の構造計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>増築部分は仕様規定に適合</li> <li>既存部分は耐久性等関係規定に適合</li> <li>建築物全体について、以下の構造計算等が必要</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>4号木造建築物</td> <td>左記以外の建築物</td> </tr> <tr> <td><u>釣り合いよく耐力壁を配置すること等の基準<sup>(※1)</sup>に適合すれば、構造計算は不要</u></td> <td>ほぼ通常の構造計算</td> </tr> </table>	4号木造建築物	左記以外の建築物	<u>釣り合いよく耐力壁を配置すること等の基準<sup>(※1)</sup>に適合すれば、構造計算は不要</u>	ほぼ通常の構造計算										
	4号木造建築物	左記以外の建築物																			
<u>構造計算が必要</u>	ほぼ通常の構造計算																				
4号木造建築物	左記以外の建築物																				
<u>釣り合いよく耐力壁を配置すること等の基準<sup>(※1)</sup>に適合すれば、構造計算は不要</u>	ほぼ通常の構造計算																				
		<p><u>※1 建築基準法施行令第42条(土台)、第43条(柱)及び第46条(耐力壁等)の基準(枠組壁工法又は木質プレハブ工法の場合は平成13年国交告第1540号第一から第十までの規定)</u></p>																			
	構造上 分離	<ul style="list-style-type: none"> <li>増築部分は仕様規定に適合</li> <li>既存部分は耐久性等関係規定に適合</li> <li>増築部分、既存部分について、それぞれ以下の構造計算等が必要</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>4号木造建築物</td> <td>左記以外の建築物</td> </tr> <tr> <td>増築部分</td> <td><u>構造計算が必要</u></td> <td>ほぼ通常の構造計算</td> </tr> <tr> <td>既存部分</td> <td><u>耐震診断基準に適合</u></td> <td><u>耐震診断基準に適合</u></td> </tr> </table>		4号木造建築物	左記以外の建築物	増築部分	<u>構造計算が必要</u>	ほぼ通常の構造計算	既存部分	<u>耐震診断基準に適合</u>	<u>耐震診断基準に適合</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>増築部分は仕様規定に適合</li> <li>既存部分は耐久性等関係規定に適合</li> <li>増築部分、既存部分について、それぞれ以下の構造計算等が必要</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>4号木造建築物</td> <td>左記以外の建築物</td> </tr> <tr> <td>増築部分</td> <td><u>構造計算不要</u></td> <td>ほぼ通常の構造計算</td> </tr> <tr> <td>既存部分</td> <td><u>①釣り合いよく耐力壁を配置すること等の基準<sup>(※1)</sup>、②耐震診断基準、又は③新耐震基準<sup>(※2)</sup>に適合すれば、構造計算は不要</u></td> <td><u>①耐震診断基準<sup>(※1)</sup>、又は②新耐震基準<sup>(※2)</sup>に適合</u></td> </tr> </table>		4号木造建築物	左記以外の建築物	増築部分	<u>構造計算不要</u>	ほぼ通常の構造計算	既存部分	<u>①釣り合いよく耐力壁を配置すること等の基準<sup>(※1)</sup>、②耐震診断基準、又は③新耐震基準<sup>(※2)</sup>に適合すれば、構造計算は不要</u>	<u>①耐震診断基準<sup>(※1)</sup>、又は②新耐震基準<sup>(※2)</sup>に適合</u>
		4号木造建築物	左記以外の建築物																		
増築部分	<u>構造計算が必要</u>	ほぼ通常の構造計算																			
既存部分	<u>耐震診断基準に適合</u>	<u>耐震診断基準に適合</u>																			
	4号木造建築物	左記以外の建築物																			
増築部分	<u>構造計算不要</u>	ほぼ通常の構造計算																			
既存部分	<u>①釣り合いよく耐力壁を配置すること等の基準<sup>(※1)</sup>、②耐震診断基準、又は③新耐震基準<sup>(※2)</sup>に適合すれば、構造計算は不要</u>	<u>①耐震診断基準<sup>(※1)</sup>、又は②新耐震基準<sup>(※2)</sup>に適合</u>																			
		<p><u>※2 耐震診断の方法として、新たに『新耐震基準』（昭和56年6月1日当時の耐震関係規定によって安全性を確かめること）を追加。これにより、昭和56年6月1日以降に適法に建築された建築物は原則として改修は不要。</u></p>																			

注) 改築の場合も増築と同様。